風俗粋好傳

中

208
6
701

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

風俗粋好傳後編　巻中

江戸　鼻山人　著

○月は更科ふ名もうる紀谷

色あるものハ。沼ふ沢。蓋く光りあるものハ。蓋ふ消ぬるもあふ

とハいひながら。その裏くるとハ。ふ。ふくねべんも付ず。その消る

ゆふ。ふ。ふ。

あゝ中指の綱みゝ。江戸新間三人引連れ。七彩の茶や
香ゝやいとる。亭主女ゝ姫ぐんぞれトヨるよりコレハ入ッ来い
まセト丁〳〵義打賞トヒ二階へ案内し。各〳〵座定まるゝ
吸物紙ナ敷ア出さいろ〳〵の出しものあせ乾まで並べ来る。若
英とゝすそゞ中へ義若来るてチリカラの乱拍子おころ
けゝの帯上ゝらゝゝ又短うかゝゝ。程よく切り上ゲの幕トあって
英〳〵まゝあちゝへ入らゝても。亭〳〵ござりませう。今こゝんハ
お二舎のるゝるんゝ。花咲さんもお待うでござりませうトいゝ

初舎ふゝで紙ゝよゝゝ。ゝ紙ゝ
あてゝゝゝきのあしずゝとゝゝゝ武 云宿ふ酒ッて〳〵それが亭〳〵
ござりませうト。義若ハ三弦箱を片ケ女ゝ〳〵姫ぐんハ
出〳〵物の器をゝろ〳〵ゝ英ぶそのうち亭主ハ挑灯を
付ケて。サア入ッ来ゝまセト。一丁目の近江金へ案内ゝ。
樓上の光景。帯上の喧嘩ハ。一〳〵述るふ迄あゝ。兎ゝ
扇下で来ゝゝ吸ゝの口弁ゝ。金棒のゝゝづき。ッよゝと
紀ゝ。雛妓ハお茶を挽ゝ。座敷の隅ふ書集ゝ。悪饌の
揚を補ふふ。きゝゝふハ出ませゝふ。絃打の花を業ハ若英

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

同端を利く。チトおノケまシまーそハト。客のムこと何ム
五ひふ鉢る玄関の花も。いーろ引ケの掛子木ハ散去く
二階の手巾も扨のぢら。現世未来と掛ゆく。ゆ管縄
猿。ちく〳〵実〳〵その中指座の綱ふ。達の死すぐこの表せう付い
ちろぐりとぬ。ぬてうれしき。花咲が
ぢぐのいろを形れぜる。さ〕ねろひ〔モシイよく〳〵お忘ふあんせずハ今夜
お出ちん〳〵たこ。ちんオころちぐ扨のひが。座きイーしこ〔そん
な。実のねへめんおやゆ ねへヨ一場かこそこ。ちこるノア。反ちふ
ちねへのぐころちの形ぐみざ 花咲〔ちんふさこを。扨ぐアんふすこ

扨ぐ ねーちのんすト。飛ふちりイすヨ 猫ふ〔そこをやアこちらら
いふ文句ざ。恍惚さふりをもちゃア。獣子めげむせうふ通ふ
ちつサト。孫で嘗をさわるもちぶふのろるもちろねへりの
さ子。花咲〔チヤぬーちろやア結句。ちろ方で手をもミイもちろちゃア
ちんふ。ぐちらーふ孤トいろさぐろ。ちぶ長きぐのぐアすてぐふ。ちく
ちんちんー。俺ずくちのふ分のうへで扨ぐアふスちらかうーく
長てもいろそんぐそろてちんちいりイせん。猫ふ〔ハアそれぐやア。父
さんャ。嘆さんもねへの久。花咲〔あアイちてもぷんさうのでん

はぐらかせん。それゆへこんなゑ〜ほが家のうへゆもあり。しさ
ほう〜〜そんなおやアあんとこの。父さんや嬶さんが。外へあるき。
ゑゑ〜〜そんなもグット赤子と紀業のうへから親ちやほが。学ん
まて。来イちやと。近所の人のうわさが。楽ねる
ほう。ほうもはぐらかせん。ほう〜〜フウそれゝやアある。独り細ひ沢ぐ
ちやさが。ほうこの縁付クぐらい。ほうへもその事で。ほうちやらころ
ちも。どこやアの所へまゐぐも。せ話をしてゆる事さ。ゑゑ〜〜よ。ぐ
事ぐ。はぐらかせんこらぬ。ほうへ。ほうへ。ほうへ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

もも。あろうぬーしのあーの強ひ女ざト。嗜んのうちでおうらひ
あんをざらーうんど。初金やうらの客人と扱のつく。居らまく
せんも因果でおぎゃるんス。そんぶざらおさげーーまへ。ちやう
ちんふおーーーーありイをぎどうぬで来始終ふすそれ三立の
ふのおまんま拵大みでもちておうんあんー。是もホこ三熟緣で
おぎゃるス。緣ふふ。うそうぬもさうーふんこ手ちら。まふまう
うちやうまあぐく。せ結もーてやてくすのト点ふら迷うさ
ふうら来絲らーーうのもいひ。縁ーーうら。狐楽の仇弱さ

おうちも。馴ーーーの次でいあるんれどうれも夫婦緣分と
結ふくーよびとげそんなせくーーーー

して説きくど。邪曲ふ達〜外道ども。是を耳ふも皆へず
ふもいずして。却て苦患の惑里を快楽と思ひ〜
例のど。徳ふ〜ふ元咲が情ふ人引されて。片時も音問
ふ。帰るを〜ふ〜。親の是を見も糠ふ釘。うを〜をぬら〜く
大砌のさとふ入り浮り。泪ふ湧く〜面の胡さ。はるかなひ
の雪の夕べ。待ふ〜ねとぶまろ〜ふで。雪吾続けのきの
ふ。花ちるの渕も漸とうるんのもの〜さふたど女
房の小糸が身のうく。綱を〜ふ〜ふ。僧ィ奴とはどふ〜ど

配偶小糸が胡な夕な。捨ぐんの掃のうつ〜ぶ。殺ふ尼
と。きもそれて。彩偏妓ふうきを窓〜。内を外とも思
るうと。人のうちふおりひうれば。レふ糸ぐの女ぐうのゆくめ
おや徐ふ。チト屁のおち付せうふ。是ども美〜てノ。ふや
まふト。いろ〜徇の苦〜さふ。苦ぐ理と情のふさあやふ考く
ふいあうれどる美ふすうさく安ちる。モシヤ恪きト却ふれ
さら。甚いひ沈いあんとせう。疾妬浄ひ女ヤト怨く。穀ひ清
ならば却ツてお来もふ〜くそれ〜ふ通ひの岳つぐけふ

おかあ様も始うのうまがさ。そばにあまんさまのおん安じ。ロぶ多
のうくもちの時八ぶんにぶもあれ。美人の住方と。百ぶん猪て
あん惰ーーこれあれてあるぞあるぶいあるいろんよう。云ぬぶ結る
世ある人さまのお手体めとおのめてそもおちけぬ。ちちの
うちの。おーーさ剣形さ子せのくませ袋。ぶ。おまふ
入ぶぶ八ぶぬ。ぶ。あんの世まあが入うませう。おるさのお
まふへーーあら。傾城でもたるのあ。何是はまてまとこ
ちさうませぬ。おあふ赤ちのお楽ーーこれあまんさまのおん

安め。吾多ぶ形ア とあぶーーめさぶ。おんまろせふあります。
あぶぶふちきあんぶーとさーーぶひ。独り云。係るふ糸ぶ。ふ糸の美
ちる人めあくぶうさぶーき絵やぶあまあり。
另ふ面另まてる新色を。ふ付ても新黒ある。花七
まふぬ八まをいさめ。ふ測る緑のあんぶうて。緑めふどのも
切んーて。女ぶーあ八抜れさぶあらーわ。今とめて他ニぶ新
ふ入ぶぬ。ちあ。ぶ。あ。ぶ。の花街がのひ。あまんあ八美另と
魅女ぶーあ八まを接せ。美理も情ケも。ちらぶ。ーー
歎るりの可。ぶ。ぶ。ぶ

あらぶ者まする和編めらどのぶ。多の敵博を若号わして
それで持〳〵然ひあるる。渠ハまふ。吾実の子といふ
でも(な)ふ測る縁の表角却すめ。ち捨〳〵わらぶ者〳〵
ね。俗りち死多の時やさど若号〜配ふの。死めを又きん
宝めて〳〵たる此〜ふ。ゆもあらふふ追も義理ある新
親と恵〜て。ハぬんのる残ふ後や。若ふ商猶を推
帰〜て。母のふず涙を俗ふすわらふ。小ぶまるを拭ひ
と。一百ね指ぎ俗〳〵編めらが是ちぐのあちちまどる女

母ふ必てたま中指爪の内だろ。日の銀といふでもなし〜
俗る情弱りのと配偶て表さるぶ。未姪孫ともふ涙の種
それよりハ。一ッも果ねの若きうちふ離縁するのぶ若号の乃
と。厚死情ケのあ実ふ。ふもも是ちぐの大恵といひ。ま
又かう義絶ゆき。極ケの云治ふられ〜涙の多ふあまり
海ある山ある嗜ぐる死。おふうさ女の世厚恵是ぐと云て
寡ふども。世恵絶りを表ちる。ちるも。ある吾俗が多のうへを
その母ふ。俗ぐて母ちるとハ。多体ある仏から嫌〜いから

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701
ガラス使用

身ふあまりぬる果報ものい。あとへ火の中あの中でも飯ね
んでござりまする。縁ゑふさんのくるを通ひもそんなこぶ身の
ふ来ら。人ふ指ゝこんござりません。除ていそべ浦山木と部
の気のおもごねるの。むりあらねといいあごら。たゞ歩ゝ死き
上ゑるふ。ぢあちんさゑの此安ごを。傍でゑて歩るその剣
那さ。ようけ妾もお来俗ゝ。おんの渋ゆふ去あん
去うて。ちさうあゼトいふそもそれいやへんゝあゝ。ゑゝず来
まづくかりふゑん是の少しの法合ら。一ふ〻しねかま

倉ッ子の来恠。とゑゝこれ何不おでも女ゞゝじゃ猛ふ。親父ゃ
お代官の。同伴笑むといいあんゝて。三日も四日も居後けの
長逗留ふッイ門のおそ尾もろゝ。ぢあちんさゑのお孫
たらふ。我身もハット猫を痛ら。一ヶ月あゝ。二月あゝ。作る
工ごもあくごろり。神ふ洞いつゝふどもゝゝうゝる夫の
身のうゝ。ぢ推量あされてちさうあゼトきゝ。九七もゝ八ゝそんあら
縁ゑゝふどのゝ。そゑゝさを離縁するゝ。あゝの少ゝ。いろえん
黄ッさ女ごゝゝあれべゝるゝ。陸ゝからねそゑゝさ方ら悪

起きくて出て好べ是相もあるくそれへ去あんを
左七ハテそのんであるあるべ。孝とん女ぞくのんも推量く
親の寄も体まるやふ。元掛がよひもするがよれたさが若イ
ものゝ。然あるあるんで寄かくさ新とあら。接ふ車の奴道ふ
留ふ死寄ま。結づくらッイ寄多金もうくと
寄へ捨る縄ふとのがそのまあら。縄あもそのやふ寄
を捨ぐくろうするるれあんの夫婦中さへ供もあるれもせね
るるら離縄をそのむ乃郎ふ。たとへ牛ふ馬を寄換ん

仕合ふあらくとも元本ふ持る。未本はしどや。通ふ縄多へ
さるはまを去切ふて。縄ふくとのくんのあち付ふう。接
ぐんをとるが寄一上や小毛ハイ己さくもたぐそれのこを。相タ
ともふんふ。寄てあるまるた。とへばくへなまふ入ぐず。離縄を
されても和くん。外へ配偶寄ればどうませんすぐふ。那ふく
和が長上人さるのお寄子とあり。生涯坊寄ぐ寄くます
左七アくそんな寄の弱ひるるでどても。倡妓ぐるひのあ
止へ出来ね。それも是もアノ縄多へどのが。扁屋多壁じん

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

ゆ〻兎角内儀のお徒が個くるまづくるその物をも
やの綱ゆるくどの〻んゑゑもさいふ子管であるあらべ又
秋志まんもあらう猛ね甚るもその手までばくとまふ中指
五の内を。記ふ和と扨のつて居るゞようにそやト。有おやのおいん
さのまるこゞ濡るだろうあり。まのくきゞ垂のまくの内。これ志まんの別せちのあら
そふいろのとくうすく。かすゝふまゞ〻ゝ揚よふ。内のぶ
そゝ尾もゝゞ多らつゝし。飛といひのゞらゞ。女ゝ〻ふ子ゞ羨とまりひまゝと
ありてさゝくゞふとりあすゝくろゝをよゝそわておゝきそてゝ志のくろへゞのいふ
いろまつゝ志の大ゝゞもゝさゝとの今ゝあり泊るあゞふゝ〻〻ゞつゝり〻ゞつゝ
五十あゝまりのゝどゝろゝふあゝゝやのあい手ゝゝもゝ。ろゝ〻わつゝしゝく茶やゝ身
あひ香ゞゞやもせんゝあゝ。揺ゝゝふいさのを出てゞゝゝりの今徴ゝゝゝ志
ゝちふゝゝゞあゝゝゝやゝあゝゝ。ゝふゝゝゝもゝゝゝ

あゝ。ゝれまでまゝくの今を。ゝ歩ゝゝゝ人あれが今ハ必ゝとさゝつゝて。外ゝゝ
ゝきまゝふいさのゝゝをゝをひゝゝふゝまゝ咲ふのゞゝて今ゞめゝ兎のさゝく
世ひもあゝやゝゝふゝゝゝゝあゝゝゝゝ。ゝゝ兎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あまの川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

家新まるぐ。壁ゝ入まての金の戈角。その結道も知て
あり。まアそのあるる大それさ指情少お宮も陸ゝくとう
爰ず。主人係しの色るが。外のものゝも張ッて入れ〳〵の
級めが立ませね。ふら表へ出勤もあさろあら指別
さもあられがおまゝ独りで二階の風呂が熱くあるあんまり
我儘も。式大ぜゝあゝ換られぬト。苦笑〳〵コレノお岩ぶんお
まへの新を踏ぬて。引ぶ沢でもおぶゝぶせん。ゆゝず熱く
なのあてくまさろ来んな。実ふ持為の式藤が。整でもおち

付さゝすれば。今ゝ出勤致しゝ。お岩〳〵平ト切者なるの
あろせゝもる。第首も売の後ものゝ入し。境盃の引出ら
一ゝ〳〵明ケて見られさら。言沢もぶぶんすゝ。怕侮けゝさ
止ゝひ恒相にでいゝあてゝ来るゝゝト。怒つゝんで捻付ケ〳〵。あらの
地獄の責叫喚。妄習の大焦熱。ゝる因果の罪科と
苦咲も覚念して。ゝく。舎也独狂。悪び実入る下るうち
早苦痛ゝんのゝコレお岩ぶのいゝそのゝるゝふ。下ゝゝひ二ゝ
親〳〵ゝまゝんせ。あゝゝ捜ゝを肖くとも。怒ゝ〳〵ゝまア式

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用

折柴こしや金ゆるぐ。夢さめぬれども。是非ゆめよ
ぞねサア親せトやぶれうぶれのすてぢもせんを和て思べ
それ　ぐあれおとこそぐふるるお男ものあ我もあ者く
是で恒抜おとこ人ずべまま裸ゆーてと女せの極たらいを擒
あ猿。うきあの和をさらさせうト。あげの情ケもあれべとそ
可愛の苦患ゆ見咲笑も活ゆるん地ゆあくぞろ。只紛俳と
あるるゆうう。亭主九左ゆ。あくぶ。ちをコレ見咲そるる
まア彼ぞ造化のよゆめのぞや。愛ゆ手な也出さるのゆ見
客人ぶチト次あるる。身待する。の愛ゆを合。愛へ式方

も。ぶしょうち拾余して。あさ代のあれば。安国を賞てこ
百あまり。たらさ今お徒ゞ寂さうへいのやうや門のまろうへいとも
遠ふ。大切な身のうへ。実あて是まで。怒りしふへいうちと
後の辛さであらうれど。ハテ。金銭有死者貴ゞら。泥
あの。幸ゆうと。塩梅して。拾ぐんよく。和めく。門を出てゆきれ
たうへいず。知ずの寄へいで。三百あまりの金を出して。身体
まかうといふ。ねこうほひ狂のあうまるまんぐら。悪遠
たゆ。もあるまい。あんあるも。甚だの。大社金を。遠の

駕へ日のまうこ。丸ぜんを。帰るゆくくあれだやぐ。金銭
乃もある。そのうちふ。髪も結ぐ。黄ふぶは。部屋を。
後あれと。抑ひうげる。死義ら。持。湯ゆるお徒を。ホ
様耳ふ。ゆうも。死ぬ。偏ふ。美の。地しつ。今ゆで。鬼
かとおのうれしへいもたちあり。仕とあり。ゆさしふとなまをうけ
まくも。祈あふ。身のふぶ。祝。玉のおへぶ。ゆくれど。美三
身のうのお徒と。あんまり。部合の。後。ゆさ。ま。書ひし
ふの。推重。あ。且。ぶ。こぶ。一会ぶ。ゆ。ゆ。ひ。ア

つる
綱をくさるのお情ケあそこもあるあらべ吾くもいあんと二月も
ぐん
至も一ケ月ほ不事さ却のひたーうふさーどヤト門出を拵らへて
ろさ
いさこ五田山。寺をのこぐ寺もうれーぐ三。いろまる光寺で
ケーき
光あるべー。かくてその日も暮てゆく。夜ふけまるる玲の
すぐ
れ
まる。二階めを相図ふすぐ死のーくよあるこのその中へ
あいづ
光咲ぐ多情の通ひ。ゆるる大門の外ふ待せ。人ハ近江屋
ろご　あれも　そと　まち　あこみヤ
の内逢へ来うて。すぐこく稼仮あるを合ハせるを呼る
あのこまく　かせぎ　ふみや　ふ　ぐ　ふ　ぜ　よ
ん者ひ。ふて。ぜて。ぜこふ九右ハも万場義知のそうひ
ぜん　ぜこ　ぜ　ぜ　ぜ

208
6
701

ゝ
ゝゝゝおよびよせ。花咲ゲ多のゝゝの世話をする。增淚ゝゝ
ゝるゝさんが佐次ゝもあのひよぐぎる妻ひをゆゝく。親
子ゝ人ゝゝゝゝ上り。花七ゲ情ケ本ゝゝゝる。月日をおくり
ゝる。偽ゝゝゝゝ者ゝゝゝゝ

国立国会図書館　風俗粋好伝 2編 208-701

ガラス使用